

「血糖降下」から「 β 細胞保護」へ 糖尿病治療のパラダイムシフト

2024年 **1月18日(木)** 13:00 ~ 13:40
(講演30分+リアルタイムアンケート10分)

この20年の間に、多くの新しい薬物が開発され、2型糖尿病の治療は劇的に変化した。特に、インクレチン関連薬が日本で発売された10年の間に、2型糖尿病の治療の概念も著しく変化した。DPP-4阻害薬はグルコース依存性インスリン分泌の促進により、低血糖のリスクを高めることなく、正常な血糖マネジメントを達成することが可能となり、より患者さんのQOL向上を目指した糖尿病治療が実現できるようになった。しかし、医療現場ではClinical Inertia (臨床的な惰性)と言われる、治療目標が達成されていないにもかかわらず、治療が適切に強化されていない状態がしばしば問題視されている。本講演会では自身の研究や診療より得られた知見を含め、 β 細胞の仕事量 (workload) 減少に焦点を当てた薬物療法について解説し、糖尿病の病態に基づいた今後の糖尿病治療の方向性を提案したい。

■ 13:00 ~ **講演** (30分)



演者

税所 芳史 先生

さいしょ糖尿病クリニック 院長

ご略歴

- 1998年 3月 慶應義塾大学医学部 卒業
- 4月 慶應義塾大学医学部内科学教室 入局
- 1999年 12月 埼玉社会保険病院 (現JCHO埼玉メディカルセンター) 勤務
- 2000年 4月 静岡市立清水病院勤務
- 2001年 4月 平塚市民病院勤務
- 2002年 5月 慶應義塾大学医学部内科学教室腎臓内分泌代謝内科 入局
- 2006年 4月 米国UCLA Larry Hillblom Islet Research Center (Prof. Peter C. Butler) 留学
- 2009年 4月 慶應義塾大学医学部内科学教室腎臓内分泌代謝内科 助教
- 2015年 10月 同 専任講師
- 2022年 1月 さいしょ糖尿病クリニック 院長
慶應義塾大学医学部 非常勤講師
現在に至る

■ 13:30 ~ **リアルタイムアンケート** (10分)

主催 住友ファーマ株式会社

ご視聴には、「住友ファーマ 医療関係者向けサイト」で会員登録が必要となります。

弊社医療関係者向けサイトの会員でない方は、是非この機会に会員登録をお願い致します。

まずは、医療関係者向けサイトTOPページへアクセスしてください。登録方法は裏面をご覧ください。

